

(1) 整備基本方針の構成

- 策定を目指す古賀駅西口周辺整備基本方針の構成案を以下に示す。

整備基本方針の構成（案）

1. 古賀駅西口周辺の現況と課題

- (1) 上位関連計画の整理
- (2) 古賀駅西口周辺の基礎情報
- (3) 交通等に関する調査
- (4) 現況・課題のまとめ

第1回協議会（2023.9.6）にて説明

2. 古賀駅西口周辺整備基本方針

- (1) まちのコンセプト
- (2) プレイスメイキング（点をつくる）
- (3) 歩行者ネットワーク（点をつなぐ）
- (4) エリアマネジメント（面に広げる）

第1回協議会（2023.9.6）にて全体の交通体系を説明

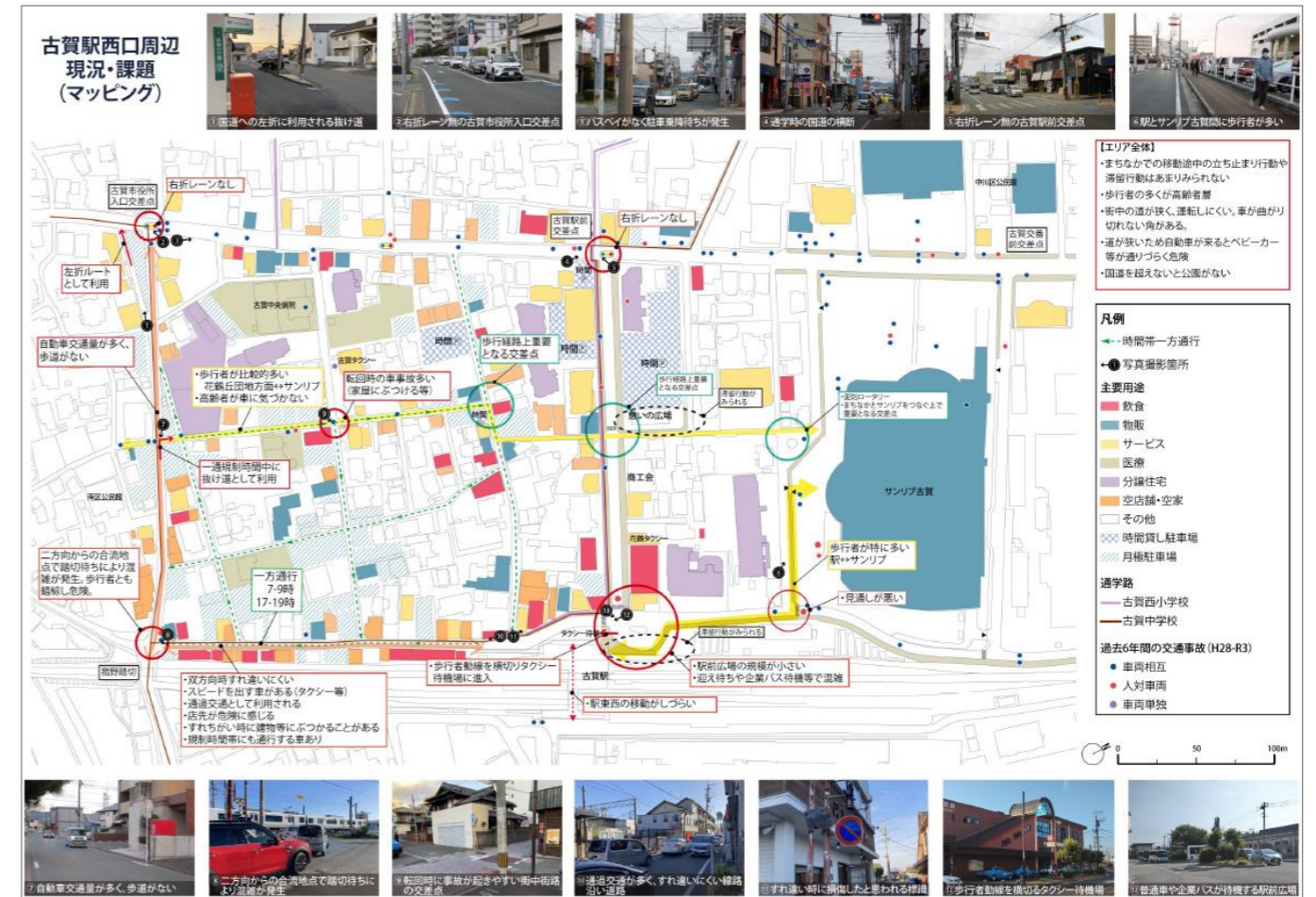
- (5) 古賀駅前まるごと遊び場プロジェクト（社会実験）について

3. 空間整備の方針

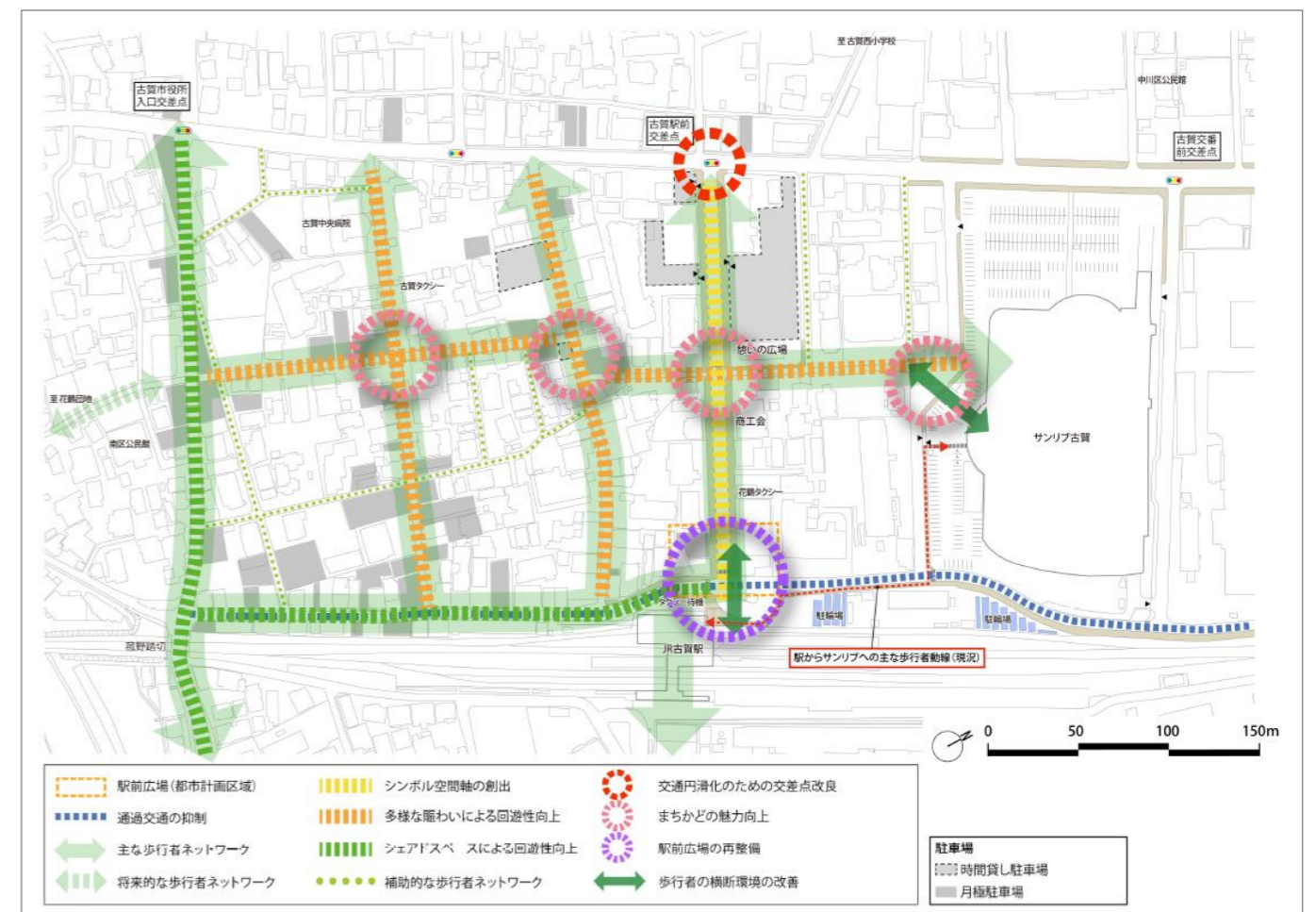
- (1) 全体イメージと機能
- (2) 駅前広場
- (3) 各広場空間
- (4) 道路空間
- (5) 整備イメージ

4. 今後に向けて

- (1) 推進体制とエリアマネジメント
- (2) 整備スケジュール



古賀駅西口周辺の現況・課題

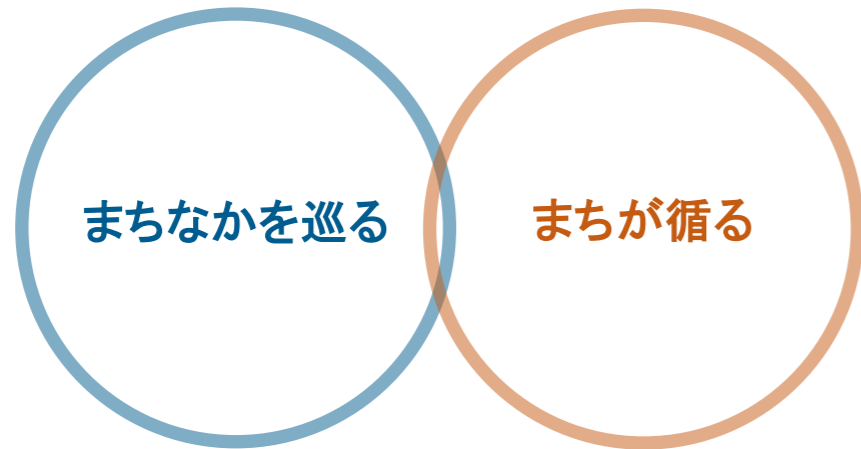


道路体系の方針図 (狭域)

まちのコンセプト

# 「めぐる」をつくる

—古賀駅西口の本質的再生へ ウォーカブルなまちづくり—

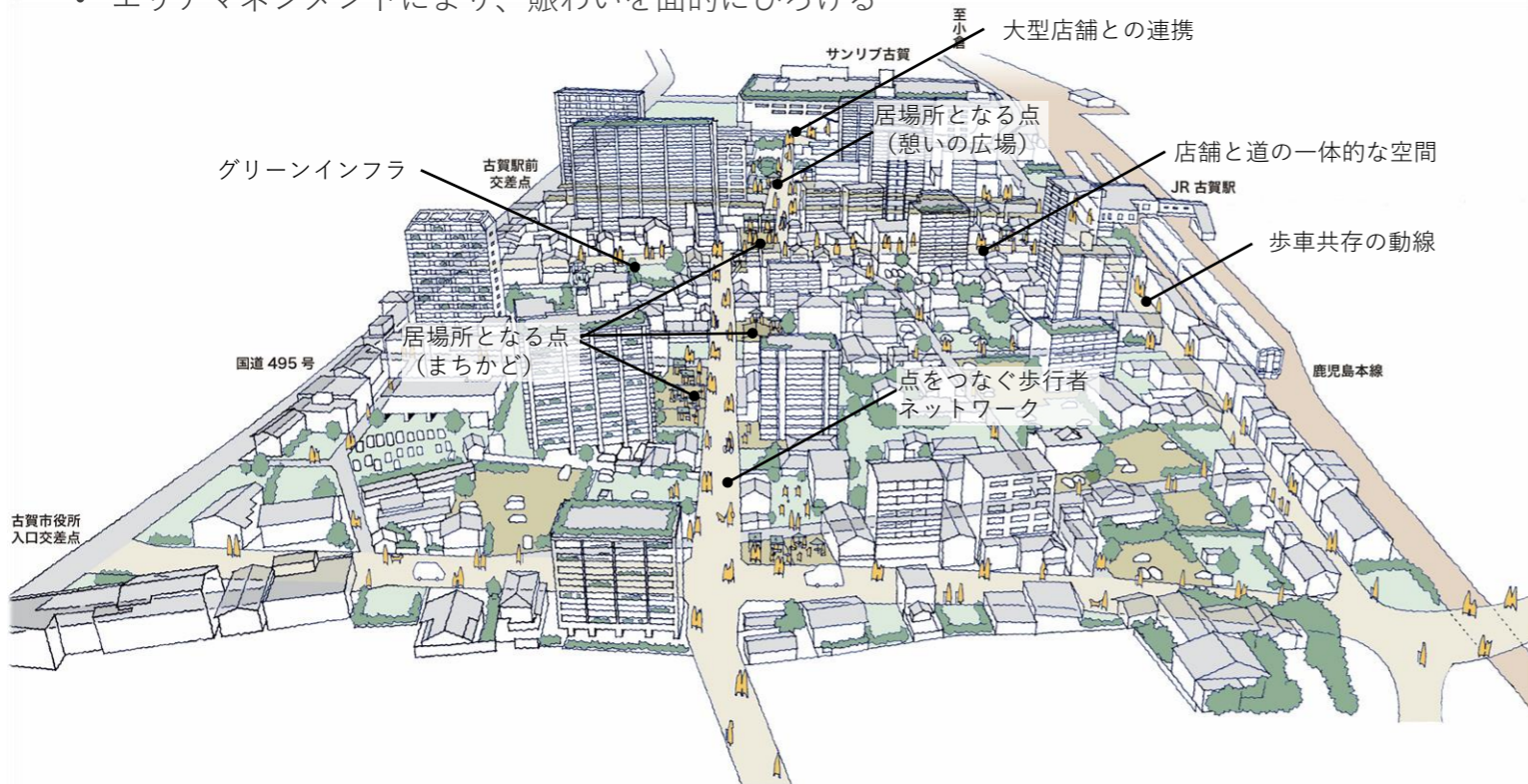


居心地がよく活動が行われる点となる場所をつくり、それらの点を増やし、つなぎ、ネットワーク化させることで、地域住民や訪れる人々にとって、居心地がよく、めぐりたくなるまちなかをつくっていく

地元のまちづくり活動がそれぞれ連携しながら、計画からアクション、効果検証を積み重ねることで、まちづくりの好循環な状態をつくっていく

## 古賀駅西口の将来イメージ

- 駅前広場やまちかど等の点の整備とそれらをつなぐ線の整備を組み合わせ、歩いて楽しい街なか空間を創出する
- エリアマネジメントにより、賑わいを面的にひろげる



まちの方針

プレイスメイキング

- まちなかを回遊する際の結節点となる、まちかどや駅前広場といった点を整備し、居心地がよく、人々の活動が活発に行われる居場所づくりをおこなう
- 周辺の民地や道路とのつながりを考慮した空間づくりをおこなう

歩行者ネットワーク

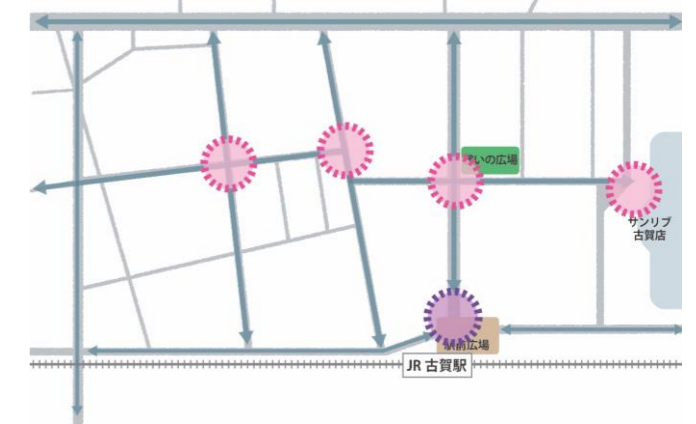
- 居心地がよく居場所となる点をつなぎ、まちなかを回遊する歩行者ネットワークを構築する
- 歩行者ネットワークとなる道路の位置づけを整理し、それぞれにあった設えに整備する

エリアマネジメント

- 点と線でつながれたまちなかにおいて、民間の個々の活動をもりあげ、連携したイベント実施や場所の活用を促進するマネジメントを行い、にぎわいをエリア全体に広げていく
- マネジメントが持続する仕組み・枠組みをつくる

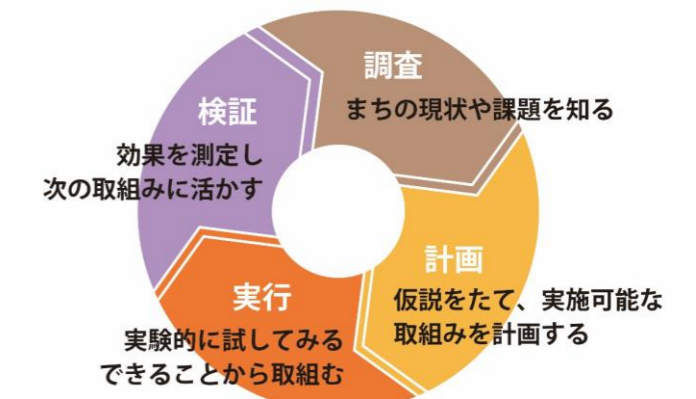
まちづくりの進め方

- エリア戦略や重点的に取り組む事項等のまちづくりの全体フレームをもとに、社会実験や小さな整備等、できることから調査・計画・実行・検証のサイクルを重ねて、まちづくりを継続・発展させていく
- 社会実験は「古賀駅前まるごと遊び場プロジェクト」とし、複数の取り組みの一体的な実施、イベント化によるまちづくりのPR等を行う



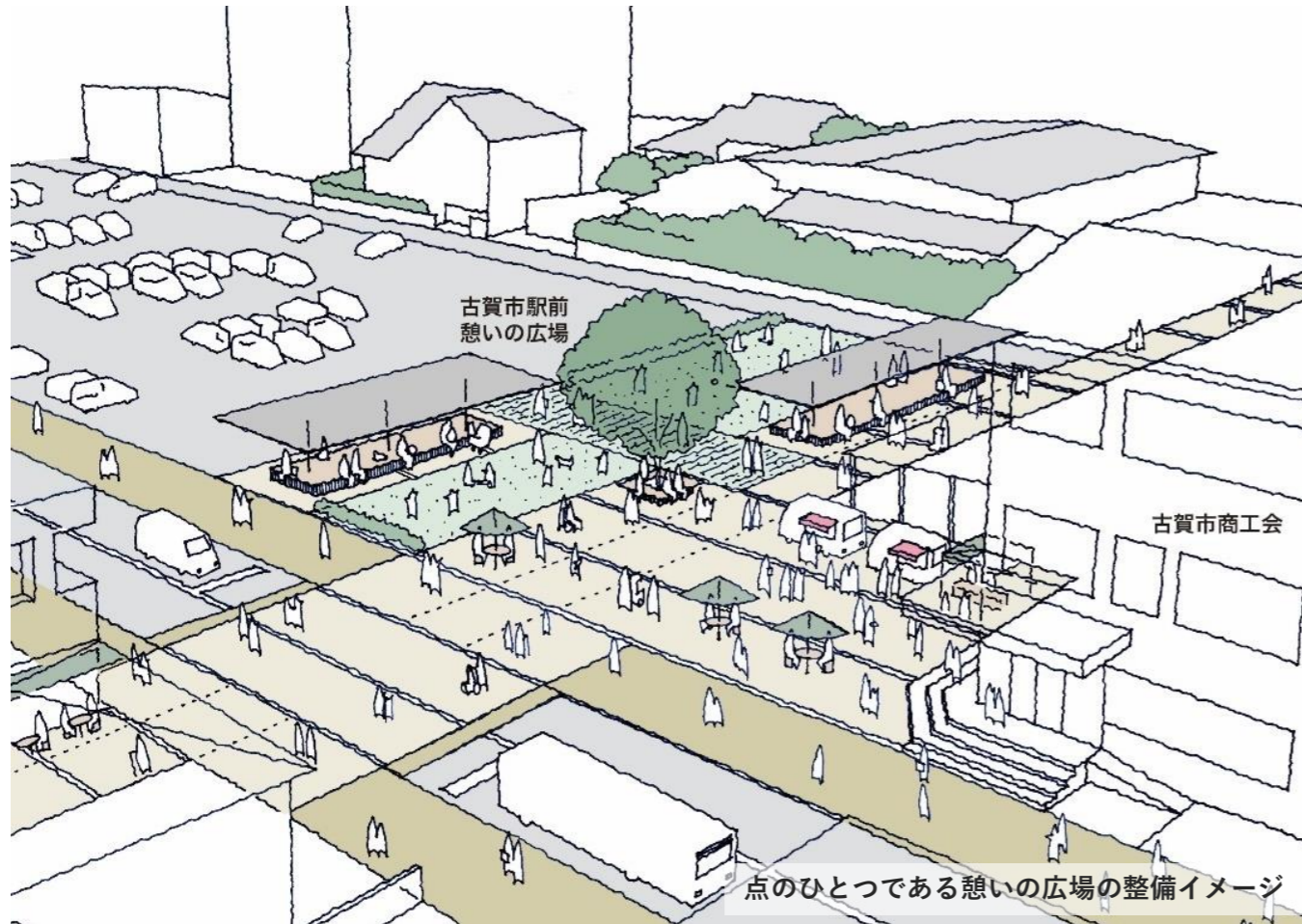
**まちづくりの全体フレームの構築**  
 ・エリア戦略、重点ポイントの設定  
 ・周辺を含む交通体系の整理 等

各種取組を位置づけ ↓ ↑ まちなかでの実践を踏まえ全体フレームにフィードバック

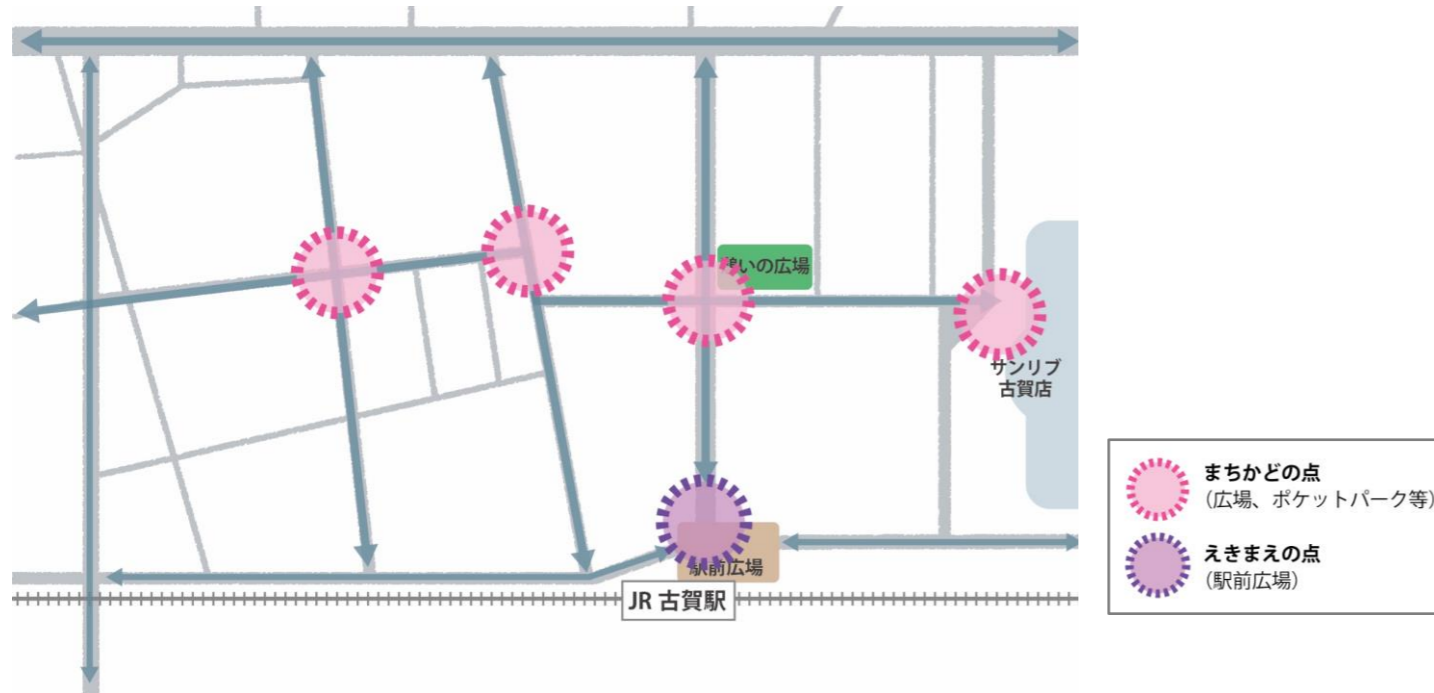


■ プレイスメイキング（点をつくる）

まちなかにあるまちかどや駅前広場を人が回遊するさいの重要な結節点ととらえ、その点に人が立ち寄り、居心地がよく過ごし、活動し、まちなかや別の点へと導かれるような居場所づくりを行う。居場所となった点がめぐり歩いて楽しいまちなかをつくっていくためのの起点となる。



■ 点としての整備を検討する箇所



暫定案（検討中）

▶方針1 人を受け入れる場所をつくる

- まちや駅から歩いてきた人が気軽に立ち寄り、憩えるような、人を受け入れる空間づくりを行う

▶方針2 周辺とのつながりをつくる

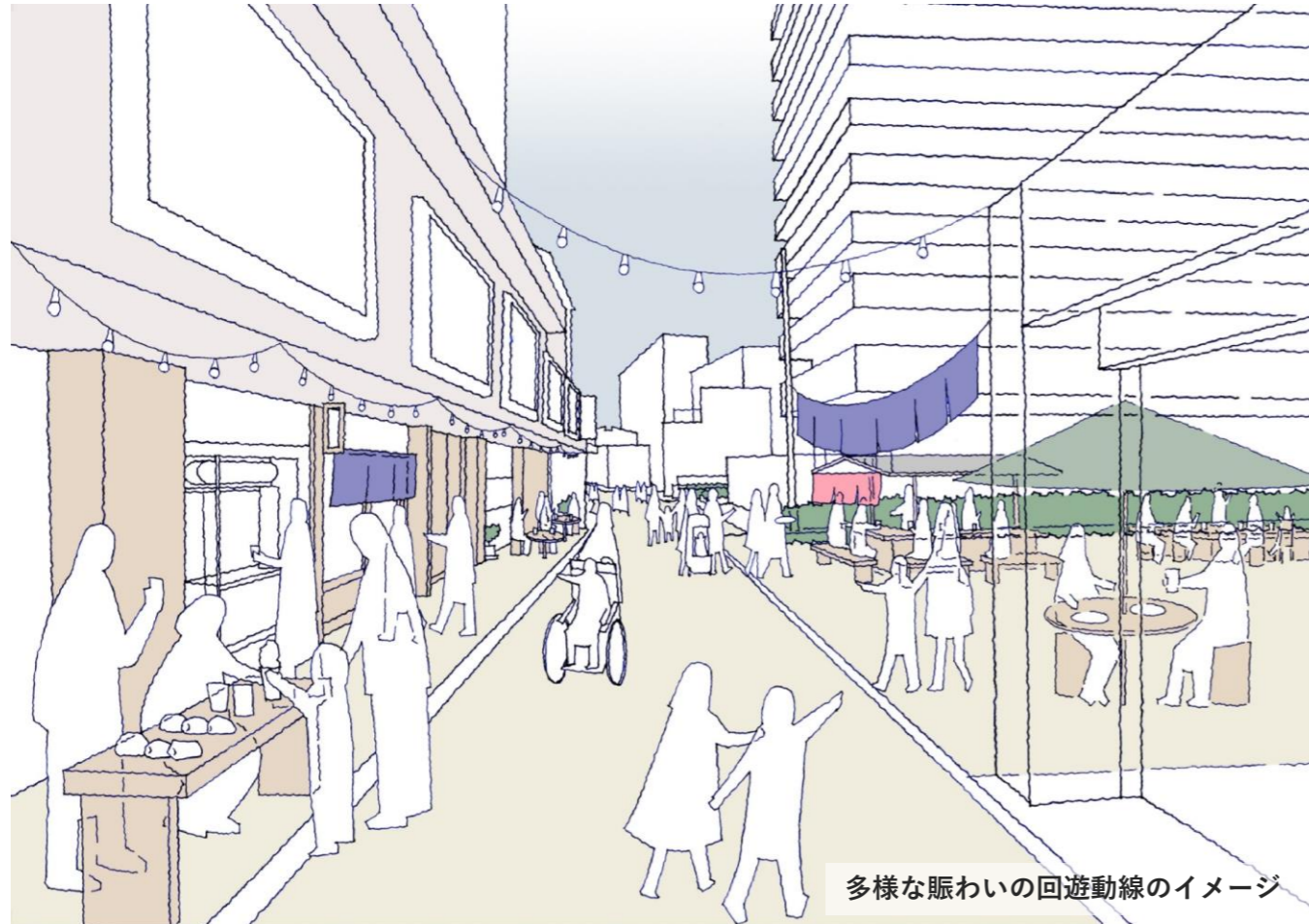
- 点の中で閉じるのではなく、周囲の民地・店舗との一体性や道路空間とのつながり、視線の抜け等、まちなかの次の場所へと回遊を促す空間づくりを行う

▶方針3 そこにいる人への働きかけをつくる

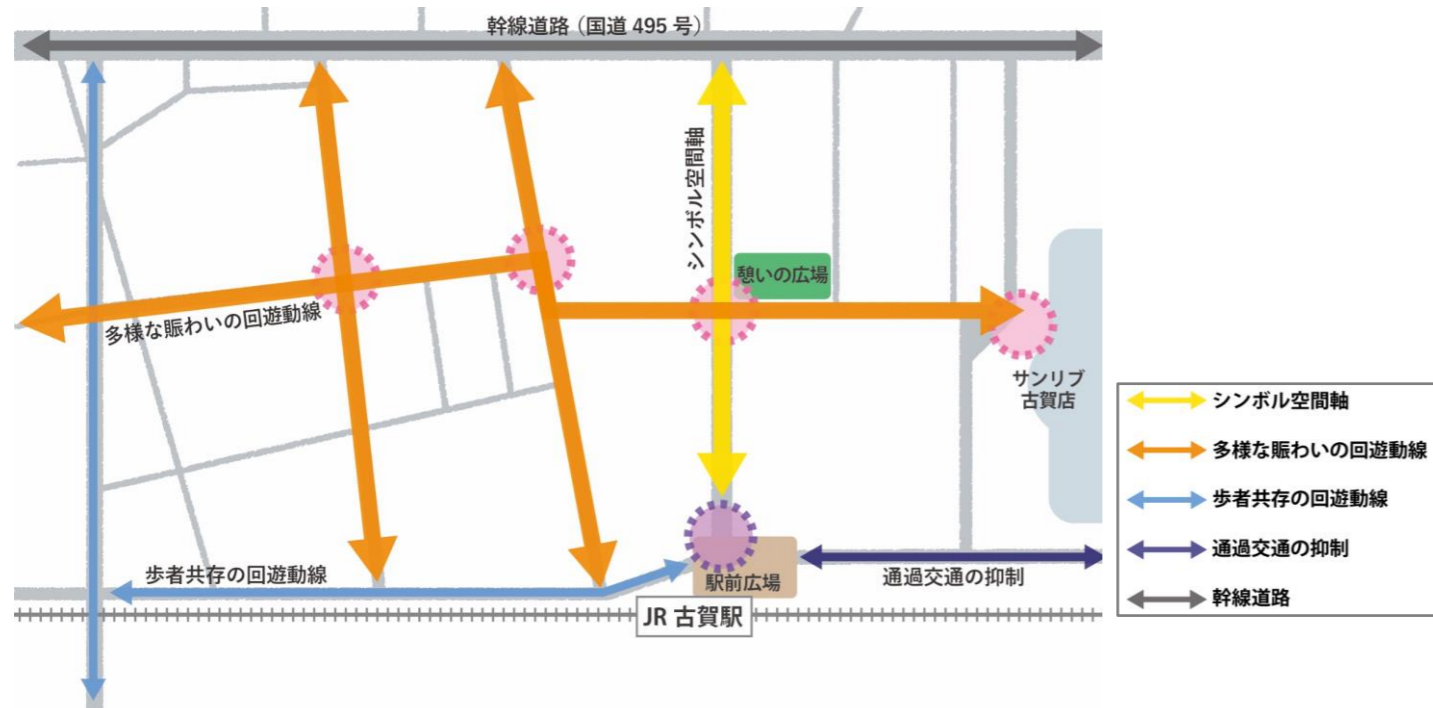
- ここにいたい、ここで何かやりたいと思われる場所とするため、アクティビティを誘発する設えのほか、多様な活動を許容する余白や、そこにいる人へ働きかけ、一緒に居場所をつくっていく仕掛けをつくる

歩行者ネットワーク（点をつなぐ）

居場所となる点をつなぐ形で、歩行者が回遊するネットワークを設定する。道路の場所、周囲の環境、これまでの人の流れ等を踏まえて各道路を位置付けし、その特性をさらに際立たせるために舗装等の道路空間を設え、歩行者がめぐり歩いて楽しい環境をつくる。



歩行者ネットワークと各道路の位置づけ



暫定案（検討中）

方針1 人中心のまちなかのための交通環境を整える

- 歩行者ネットワークの構築の土台として、古賀駅西口のみではなく、周辺も含めた交通体系の再編を推進し、自動車交通の抑制など、まちなかを人中心とするための交通環境を整える

方針2 点となるまちかどを活かしたネットワークをつくる

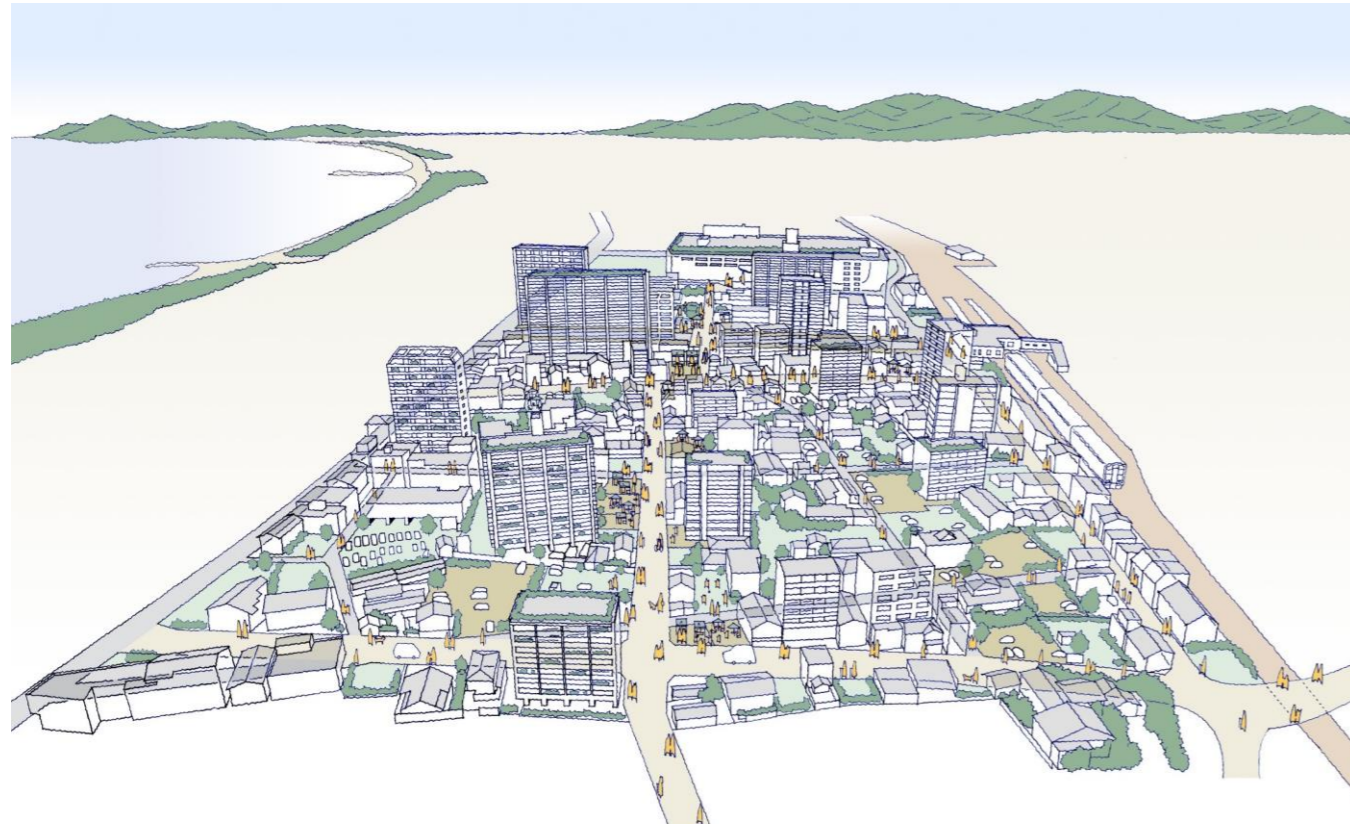
- 交通の結節点、居場所となる点であるまちかどをつなぐことを主軸に、まちなかの道路について、場所や幅員、周囲の環境、これまでの人の流れや今後の自動車交通等を踏まえて位置付けし、それらが交わる形でまちなか全体の歩行者ネットワークを構築する

方針3 特性に応じて道路空間を設える

- 歩行者ネットワークに位置付けられたそれぞれの道路について、その特性をより際立たせるために道路空間を設え、歩行者ネットワークをより可視化し、歩行者の回遊を促す。

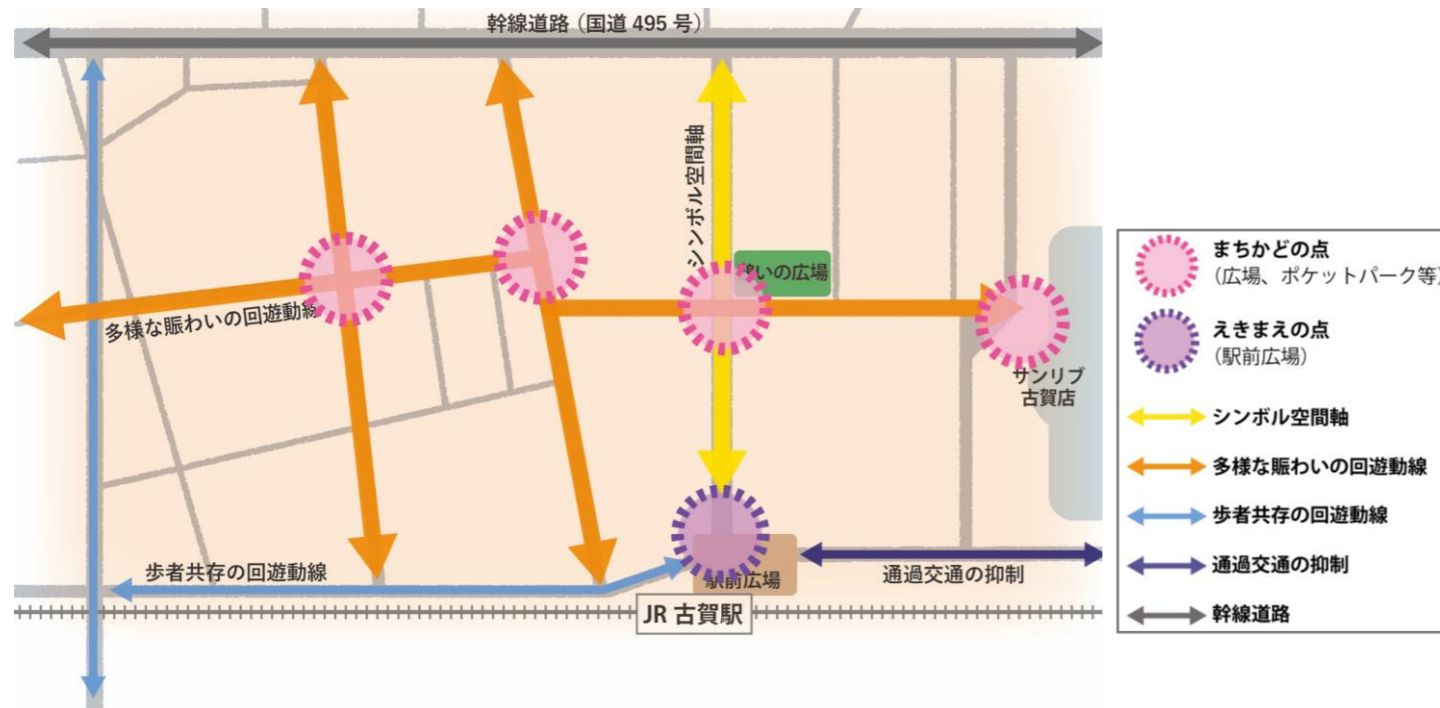
■ エリアマネジメント（面に広げる）

点と線でつながれたまちなかにおいて、地域の店舗や活動団体等が点の空間を使いこなし、線に活動が染み出すことで、点以外の場所や線周辺の魅力がより高まり、にぎわいと回遊が面的に広がっていく。このような状況をマネジメントするために、まちづくりの方向性を共有し、機会に応じて連携・協同する枠組みをつくり、それが持続していくための仕組みを構築する。



エリアマネジメントにより、賑わいと人の回遊をまちなか全体へと広げる

■ エリアマネジメントによる面としてのにぎわいの展開



暫定案（検討中）

▶方針1 地域で点を使いこなし、線に活動が染み出す機運を醸成する

- 地域の店舗や活動団体等が点や線に関わり、点での活動を自身の集客につなげたり、線側に民間の活動が染み出し魅力的なまちなか景観を形成したりすることで、まちなか全体に面的に賑わいが広がっていく
- そのような取組を促進するために、地域でまちづくりの目指す方向性を共有し、情報を交換し、それぞれの活動を支援する枠組みを構築し、まちなかぜんたいのまちづくりの機運を醸成する

▶方針2 地域で連携・協同する機会をつくり、一緒に盛り上げる

- 地元の店舗や活動団体の個々の活動を支援するだけでなく、連携による取組を推進し、まちなか全体でのイベントの実施など、連携・共同する機会をつくり、面的な取組の効果の実感・検証から面的な取組の更なる推進を目指す
- 地域外のプレイヤーや活動をまちなかに取り入れ、まちなかの魅力向上を図るとともに、古賀駅東口など周辺との連携や展開も見据える

▶方針3 マネジメントが持続する仕組みをつくる

- エリアマネジメントの取組みが持続的なものとなるよう、無理をしない体制や財源の確保等の仕組みをつくる